

公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市旧齋藤家別邸		
管理者名	要松園・新潟ビルサービス共同企業体	指定期間	平成24年4月1日 ～ 平成27年3月31日
担当課	中央区役所地域課		
所在地	中央区西大畑町576番地		
根拠法令			
設置条例	新潟市旧齋藤家別邸条例		
施設概要	施設面積 敷地面積：4,549.93㎡ 施設内容 木造2階建て 延床面積：762.39㎡ 一階大広間、一階座敷、西の間、土蔵、配膳室、二階大広間、二階座敷、茶室 東の間、交流スペース、庭園他		

施設設置目的
<p>近代の新潟を代表する豪商の別荘である旧齋藤家別邸をみなとまちで育まれたもてなしの文化を体感できる場として活用し、かつて柳都と呼ばれた新潟の繁栄ぶりを市内外に発信することにより、市民文化の向上、観光交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的とする。</p>
管理・運営に関する基本理念、方針等
<p>(1) 新潟市旧齋藤家別邸（以下「旧齋藤家別邸」という。）は、新潟市旧齋藤家別邸条例（以下「条例」という。）第1条（設置目的）に基づき、近代の新潟を代表する豪商の別荘である旧齋藤家別邸の庭園と建物を公開し、みなとまちで育まれたもてなしの文化を体感できる場として活用することで、かつて柳都と呼ばれた新潟の繁栄ぶりを内外に発信し、もって市民文化の創造、観光交流の推進及び地域の活性化を図ることを目的とする。</p> <p>(2) 旧齋藤家別邸は、西大畑周辺の歴史的建造物や文化施設と連携し、観光やまち歩きの拠点として活用することにより、地域の活性化を図る。</p> <p>(3) 旧齋藤家別邸活用等検討委員会から提案された「旧齋藤家別邸整備活用計画」を尊重した管理運営を行う。</p> <p>(4) 旧齋藤家別邸は、将来的に文化財指定を視野に入れて調査を継続している施設であることから、その歴史的・文化的な価値を十分に理解し、文化財保護に係る法令・例規と施策に準じて、適正な管理運営を行う。</p>

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価	評価コメント
市 民	提供サービスの情報発信	ホームページ・ツイッター等で月4回以上の更新で情報発信	月平均11回の更新	A	多岐にわたる情報ツールを駆使し情報発信に努めた
	施設利用度	来館者数年間40,000人以上	来館者数は年間52,825人	A	指標を大幅に上回る来館者数を達成した
	自主事業の実施	設置目的に合致した自主事業を年20件以上実施	企画展・イベント計13件、セミナー17件	A	件数は昨年度より減少するも、指標は十分達成した。
	利用者の満足度	来館者に対するアンケートで「良い」「とても良い」が90%以上	「満足」「やや満足」が98%	A	アンケートの結果来館者の満足度は非常に高く、苦情は1件もなかった。
	苦情・要望に対する対応	来館者からの苦情・要望に対して3営業日以内に回答	苦情はなかった	A	
	ボランティアの活動	1人当たりの活動件数を年10件以上	ボランティア登録者数78人、一人当たりの活動件数8件	C	活動件数は増加したものの、登録者数が増加したため、一人当たりは減少した。
財 務	管理運営経費の節減	管理運営経費を指定管理料年度協定額以下	59,550円不足し、自主事業収入で補填した。	B	自主事業収入の補填により指定管理料は協定額同額
	市の歳入の増加	使用料収入が昨年度以上	収入は9,496,580円（昨年度5,688,960円）	A	昨年度を大幅に上回る収入を達成
業 務	日常連絡の適切さ	月次報告書を翌月10日までに提出	遅れて提出することが複数回あった	C	
	改善を必要とする際の対応の迅速さ・適切さ	改善勧告等を受けた場合は、速やかにそれに対応	所管課からの改善指示に速やかに対応できた	B	
	他施設との連携	他施設との協議や共同事業開催年10回以上	会議4回、共同事業4回、協議10回以上	A	西大畑旭町文化施設協議会（異人池の会）の中心となってHP開設、連携事業などに取り組んだ。
	安全責任者の配置と安全確保体制の確立	防災訓練実施年2回以上	年2回実施	B	
	当該施設の管理に係る関係法令の遵守	各種マニュアルの点検・拡充	状況に合わせて整理した	B	
人 材	配置人員条件の充足	利用者へのサービスに支障なく対応できる人員体制	常時5人体制	B	
	職員ボランティア研修の実施	職員・ボランティアを合わせて研修を年4回以上実施	研修年7回	A	積極的に研修を行った

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 (所 見)

設置目的のとおり、観光交流の推進及び地域の活性化に寄与することができた。
 来館者数及び使用料については、年度末に行われた貸館イベントの影響で昨年度を大幅に上回る実績であった。なお、当該イベントによる影響を除いた場合でも、来館者数・使用料共に指標を上回っている。
 ボランティアの活動については、登録者が増加し、積極的に研修を行ったため、活動件数は増加した。しかしながら、一人当たりの活動件数は減少したため、今以上に活動件数を増加していただきたい。
 他施設との連携については、昨年度正式に立ち上げた異人池の会の要として、多数の会議・協議を行い、昨年度を上回る回数の共同事業を実施したほか、新規にホームページを開設し、情報発信にも努めた。
 施設管理については、文化財としての価値を認識し、庭園や建物を細心の注意を払った管理を行っていただいたことにより、国名勝に指定されたことは、特に高く評価できる。
 指定管理最終年度となるが、お客さまへの対応も親切丁寧でアンケートでは非常に高い評価を受けており、平成26年度はもちろん、指定期間の3年間を通して高く評価したい。